

◇音 樂 部

生内先生が本校に就任されてから最早一年音楽部員は先生を中心に樂典を學び、或は難曲に取り組み一歩一歩其の基礎を作り上げて來た。各個人がリズムやテムポの正確になつたこと或は曲のセンスを掴む能力の點等に於て急速なる向上を示し昨年と比較すると長足の進歩が見られる。これは一に生内先生の熱心なる御指導の致すところであることは勿論であるが、部員各自も懸命に努力した結果である。

兎角人は唯單に表面の華やかさのみを見て羨望し裏面に於ける苦しみを知らない人がある。成功のかげには人に知られない並々ならぬ苦勞のあることは音楽部員の身を以て體驗した貴重なものである。このことは將來非常に有益な參考になるであらう。

部の活動として部員は本校の男聲合唱團たるグリーククラブに加わつてゐることは當然であるが、混聲合唱の岩手フィルハーモニックソサイテイにも加入してゐる。今年春の藝術祭にはグリーククラブとして出演し立派な成績を上げた。一方縣主催第三回藝術祭に岩手フィルハーモニックソサイテイとして縣下の有名人に伍して参加し、生内先生作曲の新作カントータ「北上川」の發表により觀衆に非常なる感銘を與え、岩手高校の音楽部優秀なりとの好評を博した。

「音楽は神から與えられた最も美しい言葉である」とゲーテは云つてゐる。實際音楽は國境を越えはるか彼方の國に於ても愛され親しまれて演奏されてゐる。従つて世界的であり世界共通の言葉である。そして又音楽は藝術の最高峯であると云はれてゐる。此の偉大な藝術を我々音楽部員は生内先生を通して習

得し藝術を理解し得る人間たらん様に努力している。今後も島國的感情にかたよることなく健全な明るい人間たらん様に精進せられんことを望む。

(村松由高記)